令和８（2026）年 11 月 20 日
独立行政法人 都市再生機構

社会課題を、超えていく。
UR都市機構

東北の復興まちづくりに全力で取り組んでいます

福島被災地域の課題解決企画を学生が考える
12 月５日（土）企画発表会

独立行政法人都市再生機構（以下、ＵＲ都市機構）は、全国 100 名の応募から選ばれた 15 名の学生が福島県浜通りの原子力災害被災地域を訪れ、復興に携わる方々と出会い、復興について学ぶスタディツアー『キモチ、あつまるプロジェクト 2026』（以下、本ツアー）を実施しています。

本ツアーでは、８月に学生が３泊４日で被災地を巡り、復興やまちづくり等に携わる方々と交流し、地域の課題解決に向けた企画を考えました。

その後、企画の検討を経て、12 月５日（土）に学生が考えた企画の発表会を行います。来年２月には、この企画を現地で実施する予定です。

企画発表会概要

〇日程：2026 年 12 月５日（土）　15：00～17:00（14:30 開場）
〇場所：CREVA おおくま
〇発表企画の課題
- 「2 年後になくなる家」を題材とした、人の暮らしや街並みの遺し方
- 地域交流機能をもつ事務所の仕組みづくり
- キウイ畑に人をつなぐ家具作り
- コーヒー粉の再利用について

12 月６日（日）についても、企画発表会の講評をもとに４班に分かれて大熊町、双葉町、浪江町において現地の見学やグループワーク等を行う予定です。取材をご希望の場合は事前にご連絡ください。

ＵＲ都市機構は復興拠点整備等のハード整備だけではなく、交流人口・関係人口の創出・拡大や賑わい・交流づくりに向けて、実証活動等のソフト支援にも取り組んでいます。本ツアーは、その一環として行うもので、これからの未来を歩む世代が被災地域のことを知り、復興に関心を持ち、行動してもらうきっかけとなることを目指します。

後援：復興庁、大熊町、双葉町、浪江町




8/19～22 のスタディツアーの様子

本ツアー実施スケジュール

５月～６月	参加学生の募集を実施、100 名の希望者から 15 名選定
８月	福島県大熊町・双葉町・浪江町を巡る
９月～11 月	地域の課題解決企画の検討
12 月５日（土）	大熊町で企画発表会を開催
12 月６日（日）	企画実現のための現地グループワーク
２月	現地で企画を実施

【お問い合わせ先】

■本ツアーに関するお問い合わせ

・キモチ、あつまるプロジェクト 2026 事務局（朝日新聞社メディア事業本部内）
kimochi-atsumaru@asahi.com

・ＵＲ都市機構　災害対応支援部企画課　　電話：045-650-0871

■報道関係者からのお問い合わせ

・ＵＲ都市機構　広報室広報課（報道担当）　電話：045-650-0887

本資料配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、復興庁、福島県政記者クラブ、いわき記者クラブ、お付き合いのある記者の方々

ＵＲ都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害対応支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

https://www.ur-net.go.jp/

EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

社会課題を、超えていく。

UR都市機構

参画パートナー

UR都市機構は、GREEN×EXPO 2027 に参画しています。

©Expo 2027

＜参考＞ＵＲ都市機構が行う原子力災害被災地域における復興まちづくり支援

大熊町、双葉町、浪江町では、福島第一原子力発電所の事故により、長きにわたり避難指示が続いていました。現在は３町すべての特定復興再生拠点区域の避難指示が解除され、住民の帰還等により少しずつまちに賑わいが戻りつつありますが、３町の居住人口は未だ震災前の１割程度に留まっています。

ＵＲ都市機構は、これらの課題に対応するため、ハード・ソフト双方からのアプローチが不可欠との認識の下、「復興拠点整備事業支援」「建築物整備事業支援」「地域再生支援」の支援を一体的に行い、復興まちづくりを推進しています。



※復興まちづくり支援の具体的内容は、下記 URL をご参照ください。

東北震災復興支援本部（東日本大震災からの復興支援）｜ＵＲ都市機構

●支援３町における主な取り組み

「浪江駅周辺地区」（浪江町）

隈研吾氏らが手掛けた「浪江駅周辺グランドデザイン基本計画等」をもとに、駅周辺の商業・住宅・交流拠点を整備し、帰還者や移住者が安心して暮らせる環境づくりを支援。



©kengo kuma & associates

「双葉駅西側地区」（双葉町）

基盤整備工事や建築施設整備の技術的支援を受託するとともに、まちなか再生に向けた支援を実施。住民帰還のための「住む拠点」づくりに向け、復興まちづくりを推進。

地域プレイヤーの発掘・連携や町の賑わい創出を目的に、空き地等を活用した「ちいさな一歩プロジェクト」を展開。



「下野上地区」（大熊町）

宅地や道路等の基盤整備、公共建築施設整備業者の公募および周辺施設を含めた指定管理予定者等の公募の支援を実施。令和７年３月には基盤整備が完了し、オフィスや飲食店等のある大野駅西交流エリアがオープン。

